

品質経営懇話会を創設しました

経営トップが実践しなければならないTQMの姿を議論し、 “品質立国ニッポン”復活を目指す！

本会設立の経緯と目的

日科技連は「品質経営懇話会」を創設し、2017年10月3日(火)、経団連会館にて記念すべき第1回会合、発足発表会(記者会見)、創設記念パーティーが盛大に行われました。

本会は、日科技連が品質経営、品質管理の推進団体として、“品質危機”に直面しているとも言える日本の現状を打破するために、“経営トップが経営と品質に関する議論をする場”として設置したものです。

本会のメンバーは、経営に主体的に参画している品質担当役員(CQO: Chief Quality Officer)や、品質経営を実践している企業の経営トップを中心に構成しており、経営と品質の議論の他に、CQOの育成・拡大、各企業での品質意識を高揚させる場でもあります。

委員長には、日科技連の会長であり、㈱小松製作所相談役の坂根正弘氏が、副委員長は日科技連の理事長であり、トヨタ自動車㈱顧問・技監の佐々木眞一氏が就任しました。第一期メンバーにも、日本を代表する産業界の経営層に参画していただき、今後拡充していく予定です。

終戦後、荒廃と疲弊の中から出発した日本の経済は、長期の高度成長を続け、経済大国としての名を確固たるものにしました。“Made in Japan”は、現在でも高品質の代名詞であり、その原動力は、世界に誇るものづくり技術と、高品質製品であることを疑う余地はあ

りません。その背景には、日本の製造業が、戦後まもなく、真摯に米国から品質管理を学び、それを日本の国民性や企業文化に適用するように工夫してきたことがあります。

しかしながら、多くの企業では、品質管理の対象を単に狭義の品質として捉え、真の「品質経営」に進化させることなく今日に至っており、経営トップにとって「品質」は、重大な経営の関心事と認識されなくなっている点是否めません。さらに、多くの企業では、品質に関する全責任を持つCQOが、品質管理・品質保証活動を主管していますが、CQOの立場と責務、取締役会における品質に関するプライオリティは、企業間でばらつきがあると言わざるを得ません。

その結果、企業の品質に関する不祥事や品質問題が相次ぐという由々しき事態が散見されており、この現状を打破し、経営トップの関心事として「品質」を広義に捉え、“品質立国ニッポン”復活の起爆剤とすることを目的に本会は設立されました。



品質経営懇話会 委員長・副委員長・第一期メンバー一覧

*敬称略

【委員長】坂根 正弘(一般財団法人日本科学技術連盟 会長/㈱小松製作所 相談役)

【副委員長】佐々木 眞一(一般財団法人日本科学技術連盟 理事長/トヨタ自動車㈱ 顧問・技監)

【メンバー】生駒 勝啓(ダイハツ工業㈱ 専務執行役員)、上ノ山 智史(積水化学工業㈱ 取締役 専務執行役員)、内田 雅文(コニカミノルタ㈱ 執行役)、梅田 明(東レ㈱ 専務取締役)、小原 好一(一般社団法人日本品質管理学会 副会長/前田建設工業㈱ 代表取締役会長)、近藤 潤(㈱SUBARU 取締役会長)、宝田 和彦(豊田鉄工㈱ 代表取締役社長)、丹村 洋一(JFE スチール㈱ 代表取締役副社長)、津田 純嗣(㈱安川電機 代表取締役会長)、松浦 智之(富士ゼロックス㈱ 執行役員)、宮部 義幸(パナソニック㈱ 専務執行役員)、若林 宏之(㈱デンソー 取締役副社長) *氏名五十音順

記者会見(10月3日 経団連会館にて)

「品質経営懇話会」発足発表会(記者会見)当日、会場には、約20社のマスメディアが参集し、本会への注目度の高さがうかがえ、熱気あふれるものとなりました。

坂根委員長は、会見で、「企業の取締役会で、品質の問題が重要テーマになっていない。現場だけでなく、経営トップが品質の重要性についての意識を高める必要がある」と語り、さらに「日本企業の経営者は品質に対する意識が低下し、取締役会でも議題にならないことが多く、品質が話題になるのは大きな問題が出てきたからだ。日本の強さが揺らいでいる」と強調されました。

また、佐々木副委員長は、本会を発足した理由について、「日本の産業がもう一度開花するために何をすればよいかを話し合う場を設けたかった」と述べ、「品質を広く捉え、経営トップが品質に興味を持たない現状を打破し、製品に限らず企業価値や顧客価値を含めた品質についても議論し、発信していきたい」と説明されました。

出席した記者からは、途中で打ち切らざるを得ないほどの質問が出され、記者会見終了後も坂根委員長、佐々木副委員長のもとに大勢の記者が集まり、いわゆる「囲み取材」が各所で行われている光景が印象的でした。

第1回会合の内容と今後について

第1回会合時に、佐々木副委員長がまとめとして挙げた2つのポイントをご紹介します。

●ポイント1

価値の焦点が、かつての「モノの価値(製品価値/機能価値)」だけでなく、「モノの使用を通じて得られる価値(顧客価値)」へ移行してきている。

●ポイント2

組織プロセスの質向上の対象が、「製造現場の質向上」に留まらず、「顧客価値創造に関わる仕事全体の質向上」に拡大してきている。

これらの重要ポイントを含めて、今後議論を進めていく予定ですが、研究成果は日科技連Webサイトや「品質管理シンポジウム」等で随時発信し、多くの方々のご意見を賜りながら進めてまいります。

日本が世界と戦い、産業競争力を高めていくためには、「品質」は欠かせない重要な要素になります。その



旗振り役は経営トップ以外にはありません。

そして、グローバルな大競争時代を生き抜くには、これまで長年にわたって培ってきた品質を原点とする経営にさらに磨きをかけていく必要があります。品質こそが、日本の産業競争力をより高め、世界に負けないための最大の武器となることを確信しています。

そのような議論を進めていく中で、本会の設立趣旨である「経営トップの品質経営の意識向上」「品質担当役員の役割、重要性の認識と育成」を実現すべく努めてまいります。

本会は、今後、年2～3回の頻度で開催し、議論を深めていく予定です。今回は2017年11月30日(木)に経営者層が参集することで知られている「品質管理シンポジウム」(ホテルオークラアクティシティホテル浜松)の開催に合わせて実施の予定です。今後の本会の活動にご注目ください。

(報告・まとめ: 品質経営研修センター 安随正巳)

品質経営懇話会へのお問合せ先

品質経営研修センター 研修運営グループ

TQM チーム

TEL: 03-5378-1215 E-mail: tqmsemi@juse.or.jp